第

(---)

れる。して見ると合理化と云ふ物は

極めて泥繩的の、近視眼的の、迫つ

て來なければ如何とも爲す能はざる

米國の人にのみ任せて放任した、手

簽蠶上最基幹を

號

£

H

每月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)

所刷印

濫

男好美加市田上縣野長校學門專絲蠶田上部版出會窓间町野爾南市野島部刷印聞新日毎濃信 銀帽 編 人行發 長 所行政

業 理 H 問 題

とも汚へられない。それよりむしろ れ程ひどく過去に於て怠つて居つた つて居つた事に歸する譯であるがそ しめたと解す可きであらうと考へら に叫ばなくてはならない所に立到ら 所謂世の中の此不景氣が合理化を急 術者、官吏總ての人間が合理化を怠 治家と云はず、實業家と云はず、技 近時急に合理化の壁をそろくて叫ば 外ならないではあるまいか。然るに 理化は不断に行はれつ」ある結果に **廏が行はれて行く所にある。即ち合** なる點がある。總ての産業が發達す の議論を吐いて世の中は産業の合理 他街も産業に關係ある人々は一かど 政治家と云はず實業家と云はず、其 なければならないならば、今迄は政 ンの上に、不適當なる點について改 る道程は常にそのオルガニゼーショ である。乍然此「産業合理化」なる 化でなくては夜ら日も明けない有様 近時産業の合理化なる問題について 物の正体は何物であるか甚だ不明瞭

物の様にも考へられる。 て、景氣不景氣にかゝはらず其態度 物でなくて永久不變の眞理であつ つて本質迄も變化するが如き淺薄な 如此一時的の周圍の狀態の變化によ **乍然酬つて考へて見ると、合理化は** ばならない。 一貫、常に進みつ」ある物であらね

在せしめた時に、合理化に大きなメ 度我蠶絲業を世界の生産業の中へ混 ば合理化は進められて居つたが、一 であつた。以上の如く國內的に見れ て進めて來たと見て間違ひない程度 の生産増加も先づ適當なる速度を以 に、殊に米國の生絲の消費の上に、 カリがあつた。それは生絲消費の上 Ļ 闘する製絲技術について、それぞれ 乾燥保管について、生絲々質向上に 桑園の栽植について、繭質向上に對 られる、即ち蠶の品種問題について 化の上に立つて進むで來たと考へ得 常に不適當なる點を外きて進步發達 する養蠶技術の進步について、繭の 近年迄の我蠶絲業の業態は、此合理 米國の生絲の消費に對する國內

業者にのみ繰短をせしめて、自己は 業者は自衛的に遂行する宣言を放送 得ない養蠶家には目もくれずに製絲 る事によつて、到底掃立制限をなし 行であて七八二ヶ月製絲塲を休業す 者は関体的の結合がつかず、他の同 つて、工場の統制のとれない製綵業 したが、セメントや綿絲の繰短と異 に叫ばれた題材は、繰短の徹底的遂 繭價大暴落に終つて了つた。其の次 不合理化であつて、幸蠶は大豊作、 事な桑の始末を如何にするか此の點 正体の不分明な産業合理化を擔き込 卷いてしまつた。次は當時流行の、 **場面に展開する。日く「蠶絲業不况** て今日定幕穴を掘るとも知らで進む あつて、これを質に受けて営々とし 丁度耳を心つて鈴を盗む様な態度で 居た事である。次は人造絹絲の發達 は増加するものであると考へられ 行く)放任して置いても米國の消費 絲の増加は確定的に押し進められて 共に(國内は着々合理化によつて生 むで、掃立制限を叫んで見たが、掃 で來た蓉蠶業者こそ氣の毒である。 の仕末が着かずに單なる掃立制限は 立は制限しても、後に取残された見 保証法の出動であつて見事失敗尾を **對策」と銘打つて現れたのが、絲價** さて舞臺は廻つて今日の蠶絲不况の 内にある事に氣付かずに居た、消費 た、自身の生産が米國の抱容力の圏 忘れもしない、蠶絲業場係の職者は ふ、人絹の人々が生絲の上を思ふ程 を刺激して好結果をもたらすと云 いと云ふ、むしろ人絹は生絲の需要 が、生絲の生産業を浸害する物でな 力と生産力との間の合理化が欠けて と省へ得らる」も、 へられ直に掃立制限をなし得るもの

ヌカリである。國内の生産の増加と 出來たならば瓷蠶家及製絲家は非常 の方法によつて自由になし得る事が 、榮は、或る時期に於ては存し、或る とれでは鑑業の合理化どころか不合 繰短したくない心特が自然と一致し 有利である繭の産期は一ケ年三期あ なる有利の立場に立ち図家としても るのである。若しも産繭額を何等か 時期に於ては存しない結果に歸决す らの数を有する簽蠶業者の比較的小 原料製造業たる製絲業は五百萬戸か が同一國内に於て行はれない結果、 て爲される、即ち加工と原料製造と あつて、之が加工及使用は國外に於 我生絲の如く、それ自体が原料品で 理化が何等の障害物にも阻止せられ るが故に、生産調節は容易の如く考 又單に生産制限を爲す事は最も困難 稍々相反する利害場係を有し、他方 原料業者と加工業者とは對國家的に **ずに行はれて合理化先生は徒手傍觀** 價は下落の一途をたどつて居る。 して、消費の増加しない結果益々絲 つてしまつた。かくて生産のみ増加 蠶業者の利害は稍々相反し、共存共 である、兹に於ても亦製絲業者と養 額の農凶を左右する事が困難であり する事は困難である。其上産繭は農 て、人造絹絲の原料たるパルプの生 の態にあるが現在の状態である。 て繰短をしない事に不言の間に定ま 産品である所の特性を有して、生産 積に比較的單一な方法を以つて生産 り、又綿花の栽培の如き廣大なる面 ンを以つて生産する事が不可能であ 産の如く單一なるオルガニゼーショ 中産額を集めて原料と爲す

點に於

事は、折角の合理化をしかく職者の 造絹絲の壓迫と對抗し販路を擴張し 考へて居る如く簡單に行はれ得ない 計る地域は國内、國外に及むで居る つ」進まねばならぬ。故に合理化を は一般養蠶家の福利を考へ、製絲業 以上の如く考ふる時は蠶業の合理化 より以上困難なる事業である。 なす栽桑は敷ケ年を要するが故に其 事に歸着するのである。 の立場を有利に導き、他方に於て人 **生産調節は、一年生植物である綿花**

らば、自己の手の届かない米國の消 桑園を作らない事は勿論である。 更した桑閑は水田に還元する。新に 向け、改植を行はない。又水田を戀 桑閣を變更し全部食糧品の生産に振 第一に來る可き多期に於て荒廢した 産を計らなければならない。爲之に 而して全き合理化を計らむとするな 有名無實に近かろうと思はれる。 手ヌルイ合理化方法を以つてしては が質に近い、少くとも、今日の如き か?。先づ不可能であると答へた方 然らば蠶業の合理化は不可能である は、一切の生産戦勵機關を停止して、 費はそのましとしておいて、繭の減

らしむる事が最も必要なる合理化 たならば産繭額の減少し、養蠶家の 者は組合の力によつて縦の方向に又 ふ事を得るのである。かくて常に生 蒙る損害を極めて脛微ならしめて行 横の方向に團結及統制を計る事にし て生産せしめる様にす可く、業蠶業 とも二分の一は組合製絲の手によつ た行動をとらせる爲めに組合製絲を 産を手控へて、消費量以上に出でさ 設立して、日本の生絲の産額の少く 次に胸價と絲價とが何時も相一致し

如くなりはしまいか? 将に蠶業は 逐年減少して終には伊佛の養蠶業の かくする時は日本の生絲の生産額は 目的であらねばならない。 漸時衰退せしめて他の生産業と變更 せしむるのである。 早く輸出の大宗を解き、僅に一期二 ふる時、我國の蠶絲業をして一日も

將來に於ける人 造 絹 絲 の發達を考 へ、又支那に於ける蠶業の更生を考

るまい。 かむとする狀態より脱せしめねばな て、小學教育をも滿足に逐行せしめ 期の産繭値下りによつて五百萬餐蠶 得ず、又重大なる納税の義務に事欠 家の豊ならざる經濟を破壊せしめ

柯拔 外遊

and the state of t

號

萬國動物學會議に出席同會蠶糸部會 美技師は、今回農林大臣の命を受け に於て、次の如き二題目に就き講演 伊國 Padova に開かる 第十一回 **生理及遺傳學の權威者である松村季** される筈である。

- On"Kuhto-disease", a Kind mori. L. in Japan.
- Ŋ mori. L. Biochemical and Genetical the Silkworm, Actions of the Larvae of Studies on Some Enzyme Bombyx

請演の內容は蠶絲學雜誌第三卷第

ないに拘はらず、さまで世界の學 氏唯一人であるらしい。今迄本邦に ある筈であるし、我邦からも動物學 であり、種々な新説や研究の發表が 右學會は世界中の斯界の泰斗の集り **於ける蠶絲に闘する研究發表の少く** の他の部門の人で二三出席されるら いが蠶絲に關係の方面では我松村

長野縣蠶業試験場の重鎭で、蠶体 術界に知られて居ない状態である今 第四章

mainly Young Larvae of of Flacherie which attacks the Silkworm Bombyx

第一節

生

産

累

年.

襺

生

產

表

次

帝 題 夏蠶

秋蠶

春

[]

夏

蠶產

合額

傊

11,430

101、次日 年、0六日 二、北京

スラ

1,64

110.0111

三元

號に登載の豫定である。 大大大大大大大大大 明治四十三年 共7号 正元年 1党三四 10、41 11、1型 年 正 E E

Ξ

<u>年</u>

一生、三〇八、天〇八八、生

元、元

でで

ラス

哭、远

一次台、0号

平 出

悲、三

「金門、三大

601,111 天言

一、光

気な

には、おに、

て景

1,44

元、蜀

公室、西日 天公、二元 豐、公 額

Ħî.

大,01 当、野 프 등

四、大北一四、四九

华、一公

五、八景、200

六公司 三宝

七八八三

当、当

六祭一兄当

%二是

王,00三八八公 天二里二子、天〇

四、口、四二十八六五

三、数

八公式、公园

八、二國

131、0次 人、国国、人00

1三、三品二、三元、半品

朝 鮮

進の一路を辿り昭和三年三十八萬六 (一)年産高 朝鮮繭の産額は逐年増 最大産地たる長野縣の年産約百萬石 に比するときは未だ其の三分の一個 千余石を算せり。之を内地に於ける 生産の狀況 高

に過ぎずと雖も併合當時に於ける繭一累年産額次表の如し。 るは决して遠きに非さるべし。既往 ものあるべく百余萬石の産額を擧ぐ に今後に於ける増加は一層顯著なる 正十四年を以て實行期に入れるが故 し。而して産繭百萬石増牧計費は大 て増加の顯著なる事質を看取し得べ に其の産額を二十七倍せるものにし 産額一萬三千余石に比するときは正

る産額の多きは慶尙北道を第一とし 平安北道寧邊地方は特に産額多き地 (二)地方別産高 繭ば全鮮各地に普 として知られたり而して道別に見た **過的に達するも慶尚北道安東、尚州**

蠶絲業の現狀は勿論其興隆、衰亡の ある。我蠶絲業の爲に孜々二十幾年 れた事は同技師積年の努力の結果で 多數ある蠶絲學者の中で同氏の撰は たるや重大である事勿論であるが、 くものである。從つて同技師の責任 向つて我蠶絲學の爲に大いに氣を吐 日、松村技師の今回の出席は世界に 師の此行を心から祝福するものであ である。我等は同人諸兄と共に同技 の熟誠の一端が固化形狀化したもの 同氏は學會終了後、伊國及佛國の ・思ふ。支那の蠶絲業があり、人絹業 下される事と思ふ。 は非常な決斷を我等蠶絲人に與へて の實態は同技師の如き學術に且は蠶 も可成な隆盛を示せる佛國の蠶絲業 かされ、現に人絹の壓迫を感じつゝ 業の窮境に對する最もよき方策を齎 は國難的と迄稍せらると現時我蠶絲 のみ眞相を知らる」ものであらうと 絲業の實地に通曉せる人士に依りて す事必然である。東亞の蠶絲學に脅 原因を探究せられる筈である。此れ が恐ろしい我蠶絲業に取つて此調査

期待を以て居てよいものと信ずる。

朝の後の活動には今より我等十分の

される筈であるであるから同技師歸 業の視察は勿論大學研究所等を訪問 **筈である。尚米國へも渡つて同地絹** 等の歐洲諸國の生物研究所や大學を

更に同技師は獨、英、塊、瑞二丁

訪ひ知名の諸大家に意見を質さる人

10、人国中国六、中北王 二人五、一国二二、二九中、王国四 五、一芸二人、死公 光、00%、川州、川西西 六元七日子、日本 100、100 스트 表示、二宝 1107、中川111年、利1111日 1四十次31107公19711里 图中、D公司元二元、公司 三五で、「ルニ」「四、六〇中、八三八

る所を一つにても多く持婦られん事 分にせられん事、及び彼等の長とす

を切望する次第である。

事と我蠶糸學の世界への紹介を十二

我等は同氏の行程一路平穏ならん

道とす。即次表の如し。 りて之に相次ぎ岐も少なきを感鏡北 南道、忠淸北道、等各伯仲の間にあ 江原道、忠清南道、平安南道、感鏡 昭和三年六萬三千石を産し全羅南道

道 别 翩 産 髙 表

ĵ							1		1	1				
豗	感	71.	ΣİZ	卒	黃	腿	壓	粂	粂	思	æ	京	ij	自
廯	鏡	TTEST	安	安	Mer.	伺	尙	稲	翻	凊	清	ala		
北	附	尽	:11:	附	THE	南	北	南	北	南	北	HIX		
道	道	道	逍	道	道	道	道	遒	道	逍	道	道	1	E
				:		. 7	. !						f	同
KRI.	垂	<u> </u>	PSI FE	氢	豊	式	50.	22	=	쯧		元	Ī	同等 n 敗
	Ti.	7	岩	四八	=	星	33.	옯	苔	弘	풏	元等的	į	敗
									i.				寄	
-	ΞΨ.	灵	=	云、灵	六	\equiv	33. 	區	Ę	三	ó	=		瀚
1,420	7.	101	29	弄	(C)	믔	3	ä	罗	言	売	六四三百	蒯	
				er i	-	3						i A	22	,
=======================================	>'\{ 	÷.	,ar	气法	=	4	Ξ	50	J.	70	+5	106.4	秋	產
=	光	兲	釟	즐	贾	孔	₽.		益	三	六	<u> </u>	脳	
,			Ĭ			1				¥.	V.			
=	=	天	云	三八二	八	天	至	黑	丟	鼍	13.	224	7	高
当		8	9	즈	贸	斎.	ᆽ	交	釜	芸	Ξ	芸四		ļ.
			a L							- 425 - 115			道別	產
		talen. Store		15°			· .		v 10		(+;	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	割	e Gr
Л	습	바니	χ., 1	스	贸	唱	*	天	30	仌	-	益%	EI'	網
		Ä					ei.					1.13	- 1	

戸となし(當時の農業戸敷二百七十

二烷

110.11

第0.国

(III

171

一、完先

1,000 一つの対 九

三 門式

門只 3

盟

門公 四、北 ペ110 - 元芸

0,1

1,00

二、党

1七、1三元二三、公司 1,010

一、公公 "二六

叙上の如く一石二斗內外なるのが故萬石に達すべし。然れ共戸當產額は

の既に於ては朝鮮繭産額は百二十四 を達せむとするものにして之が達成 を收繭せしむることにより其の目的 升宛)夏、秋蠶四斗計一石二斗四升 立てしめ脊鷺八斗四升(一枚四斗二 春蠶二枚、夏、秋蠶一枚計三枚を掃 萬)一戸當り桑畑一反步を持たしめ

豗

計鏡鏡北南道

三宝

、玉宝田、北八

100、元0岁0 九二五二十二二八、元十

平平黄

三九

一九、五九十三、六九

二元光次

原 道 安南道

備署 飼育戸敷は春蠶戸敷を掲げた。 五九四、二〇九

計

灵"公三

100′100

元代

000

合飼育の法により三眠位迄は各共同

過する能はざるなり。 是れ朝鮮の養蠶業は或意味に於て全 の生産高は四斗乃至六斗位を普通と (三)戸當生產高 然新規の事業なるに因る所多きと共 に比するときは著しく小量なり。 に朝鮮の民度の低位にある事質を看 し内地の一戸當り平均五石內外なる 遊濫家一戸當り胸

明なるに拘はらず極めて小規模なる 氣候好適し經濟的に有利なることの 難ならしむると共に蠶室の如き亦當 進行中にある産繭百萬石増收計豊亦 副業の程度に留まるものにして現に なからしむ。之を以て朝鮮の産業は 朝鮮民度の低位にある結果は瓷蠶業 萬石增收計畫は先つ計畫當時(大正 斯る小規模なる經營を基礎として立 を要する桑闌、蠶具の如き特散を困 十四年)の養蠶戸敷五十萬戸を百萬 楽せられたるものなり。即ち産繭百 分陝隘なる在來家屋に甘するの外途 の有利なるを知るも纏りたる資金 黄 騣 騣 全 全 忠 忠 京 海 尚 尚 羅 羅 淸 淸 畿 南 市 昭 北 南 北 道 道 道 道 道 道 遒

参酌し育蠶戸數二十戸乃至六十戸を 以て共同飼育團体を作り之に普通一 人の登蠶教師を入れ其指導の下に集

翁

共同數 共同個

經

翌 | 補助金 | 鐵锸程 収繭高 當収繭高 収繭量 | 純經費

きまれ、男

九、四老 七八五三五八六五

學温兴

118 17 119

稚

蠶

共

同

餇

育

表

(昭和三年)

り尚朝鮮各地に行はるるものにして 一未然に防止すると共に育蠶技術の簡 育家自身其の必要を認め補助金を受 易なる傳習を目的とし稚蠶共同飼育 幼稚なるが故に稚蠶飼育上の失敗を 前述の如く小規模に行はれ共技術亦 のも生ぜり。 くることなく進んで之を計畫するも 附せらる」を普通とす然れ共近時飼 郡農會又は面經費等より補助金を交 韓併合の當時より引續いて今日に至 の法を設けたり。稚蠶共同飼育は日 該共同に對しては地方費郡瓷蠶組合

稚蠶共同飼育は地方の狀勢其地を

傳習所又は道蠶業傳習所の卒業生を し。教師は大低朝鮮總督府女子蠶業 し一部は補助せらる」とと既述の如 む。費用の一部は共同者の負擔と 師は各戸を巡回教授しつく上簇せし 者の蠶兒を一ヶ所にて飼育し三眠起 に至りて之を各飼育者の家に移し教

一圓)の補助金を交附せられたり。 五萬二千七百枚の掃立をなし(一共 將經費十七萬一千余國(一共同當百) 同當二十四枚弱)二萬八千三百余石 五万余戸を導し〇一共同當三十二戸 **辨に充つる爲七万余圓(共同四十五** 九圓)を要せり。而して之等經費支 の收繭あり(一共同當十八石六升)共

数千五百七十二箇所にして共同戸数 以て之に當しらる。 昭和三年に於ける之が置績は共同 (始政當年)八百九十一町歩なりしも も行はれ其の面積は明治四十三年 四万二千七百余町歩となれり。他方 正に其の面積を十七倍して昭和三年 町歩なり)雨者合せて六万七千余町 る」ものあり其見積反別四千九百余 余町步に達し(此外山桑の利用せら の昭和三年に至りては二万四千六百 る」と共に純粋の桑田を設くること 養蠶の經濟的に有利なることの知ら

より之等は漸次整枝行はれ今や次第 られ植栽面積は次第に増加し始政當 利用せられざる土地に桑樹を植栽す に良桑田化しつ」あり。如斯特作に 増加し得るを以て當面により獎勵せ るととは他の灿作物に影響なく桑田 年の之が見積面積二干四百余町歩は

桑 H 反 別 表 (昭和三年)

					1 1112		1		1.
		<u>~</u>	里兰	局、公元、四	呵,儿公(三		i l:		
8			110° h		元	菹	鏡北	感	
汽		nie.	=, jcx, o	1. 11111. 4	剛光剛	道	南南		au Da
110	: 1: : 1:	M.	四个一个	١.	<u>₹</u>	道	原		
113		四、大公一七	三、XX.X	、	93071		安北		
109			100		一一	道		युष्ट	
73 13		4.1	三二二三三二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二		ラル	道	海	餌	etta
孟					E S	道			1177
喜		ei,		1、公0、至	一个公子	遒	尚北		mı
盁		٠.		三十二元。0	玉	道			**
<u>설</u>			, n	六元二八	当二	道			7 4
无		三、九共九		W.11#11.11	D. II	道			
力		五、云元、二		九 六 六 三	五元	道	北北	忠清	ri r
六。		16. 比村,屋	二、公园、三	一、岩兰、町	1,011	道		泉	
割以合別	道桑比	計別	見積反別	納桑田反別	見込反別一山桑利用一	名		道 ·	
									ſ

位の小産額に過ぎざるり。 第二節 養蠶の状况

當産額五石に比する時は尚四分の一 に現在に於ける内地瓷蠶家の平均戸

(

(一)稚蠶共同飼育 朝鮮の青蠶業は

鮮にては田と云ひ内地の田を朝鮮に 下に勃興の氣運を迎へ今や一路強達 (二)桑田 朝鮮の育蠶事業が新政の 業の基礎をなす桑田(内地の島を朝 の途上にあるは旣述の如くにして斯 態にありて桑樹の大部分は垈畦畔又 純粹の桑田は殆んど見る能はざる狀 新せり。即青蠶業獎勵の當初に於は し其の面積の擴大と共に共面目を一 ては畓と云ふ)は又之と消長を共に (三)繭の生産費 繭の生産費は勞銀 が朝鮮は勢銀織して低位にあり殊に 銀に影響せらる、所尠なしとせざる と密接なる關係あり殊に婦女子の勞

に利用する場合には低き賃金を以て

、こと少なきが故に之が勞力を適當 賃銀を受けて他人の家に展傭せらる 婦女子は未だ出で」工場に働き叉は

は山麓の末懇地等に植付け自然の成 長に放任せられたるが當局の指導に 歩を算せり。

• きを感鏡北道の千三百八十一町歩と 諸道伯仲の間にありて相亞ぎ最も少 にして江原道、平安南道感鏡南道の 多きは慶尙北道の八千九百十五町步 今之を地方別に見るに桑田の最も

之等桑田に植栽さるゝ桑樹の種類は 錦桑、秋雨等を植栽するもの増加し 死するものを出すにより朝鮮在來種 方に於ては魯桑は往々寒氣のため枯 魯桑最も普及せり。然れ共四北鮮地 改良鼠返、錦桑、唐桑、秋雨等とし 朝鮮の風土に最も好適すとせらる人 中の比較的優良種と稱せらる」唐桑 市平、魯桑、赤木、島の内、鼠返、 朝鮮總督府蠶業試驗所の調査に基き ついあり。

日五十月八年五和昭

する實験

(III)

製絲

VZ

長野縣工業試驗場技師

岡岡 村村 丁源 其効果を收むることを得べし。而し

れたる婦女子の勞力を利用するに逃

付二石五斗乃至三石の産繭を實際にが内地人養蠶家中には桑畑一反步に 二石位の收繭を豫想しての計算なる だ有利の狀態にあり。之を以て朝鮮 に於ける繭一石の生産費は小作料を 費は一反步の桑畑を以て養蠶をなし 内外にて足ると云はる。尤も本生産 加へ劈銀を十分に見積りて尚四十圓

て各家庭に行はるゝ養蠶は蟄居に馴 之を二十五圓と豫想すると云ふ今全 ける收支狀况より繭の石當り生産費 桑畑一反步を以て養蠶する場合に於 **緑南道の調査なりとして傳へらるゝ** 継州長城地方の内地人養蠶家は普通 十圓內外との事にて全羅南道光州、 石當り生産費は小作料を加へて石三

を第出するに四十三圓三十錢なり其

の收支左の如し。

桑畑一反歩當養蠶の收支

計·			4		繭	科	
			and the state of the second se		代	目	收
灵					12, 25 12, 25 12	企	
8	****				* 1 FRANCISCO AND COMMUNICATION	額	入
				とと當業	- る鷺	摘	
				酶 三杜 假 斗 t	言の枚		Ø
				石合図に計画	上置		
				付一本 七石質	動物校		部
				十八- 圓斗/		要	
計	小作		育為費	,	桑阆	科	
п1.	料	-	登		費	目	支
- -L:			II.	A STATE OF THE PARTY OF THE PAR	F4.	金	
してたた	完		스 참		₩ ⁶ 00	納	 }[]
	rし棉 こて花	五九蠶金	養人宛育 拾四闔	桑七桑II 苗〇園		fini	l
7	·納二 夏人五	型元 具枚	五個人錢二夫	其錢手の武人	52.4	111-0	0)
	す庁るを	(兵) (4)	宛〇男一錢六	他拾人の意夫	粉五 ☆ 枚〇		
	も小の作	の八	〇同人 圓女士	性 質 用 三	五個		쇍
	と料しと	用錢	九七〇	三国	計價拾	要	

春二百四十貫、秋百六十貫とし蠶種 春蠶三枚秋蠶二枚とせるは收桑量を | 枚の飼育に要する桑量を八十貫と | に割あて第出したるものなり。(續く) 桑畑一反步當蠶種掃立枚數を 差引利益 金四八圓〇五錢

の七十七圓 九拾五錢を産繭高一石八斗 十三圓三十錢は本表支出の部合計關 看做せるによる。繭の生産費石當四

備考 市場購入繭に對する實験 正白×昭和種に同じ。

繭三十八點)を採取した繭である 宛合計二百口(白繭百六十二點、 繭格付試験用として同市場の二日 の出廻り荷口中より任意に一日百 **酮市場より購入したものであつて** 供試験は昭和三年春鑑小計東信

螢光別色割合と解舒並に絲量の闘 を異にした場合の實験成績や飼育係

係は、前節の蠶品種を同ふして環境

第五節 色別割合と解舒

學ぐるものもありて之等養蠶家の繭 其の間の消息を探及する爲に次の如 件を等しくして蠶品種を異にした場 たのである。 く試験範圍を延長して實験を反覆し で充分競ひ知れるのであるが、更に 並に一地方産繭に對する實驗成績等 合の成績、殊に上簇試驗及び蠶品種

正白×昭和種 社へ同一日に供繭されたもの」中よ り採取する。 供試繭は昭和三年夏蠶にして筑摩

松本地方同一出廻り繭に對する實驗

平	7	- -	s	ス	ク	人侗 別育	
坞						1	項目
图、115 11.11 11.11	次、のほかに	致、0 先、少 四、	0.410.3国0.4以	10° 11'	近% 1450 1500 15	黄色中	色別
23. III	P 111'11	19	0.410	0.米。原理。	#:% 9 0%		期合
107第	1117111		10,011	(B)	10.0g 公益		制一
11,61	八天	スで	大変	14. 14. 14.	云"久 公	生十 糸十 量々	上生胸口

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	平均	% 3	. オ	ŧ	シ	人侗育	項目	正白×歐
三 三 マララ 紫 年	到"川北"	<u>= </u>	阿	٦.	=	色 色中 問	餌	儿號
大 元 益 章 完 皇		また	8		0	紫色	盤	
)、火	元品	<u> </u>	ĸ	至日	生七	处 3年 2年 -	

	ı			3	ũ	
	ı			£	Cq.	
	l			Ÿ	Ť	
	l		į.	4	Ę	
	ì	Ţ			4	
	١				1	
	l					
	Ì			É	Ĩ	
•	l			ć	느	
	ļ			Ł	Ė	
	ı			×	4	
	l		÷	4		
	ı			-1	ы.	

。黄	口問	Î	# 1:	ئے!	<u> </u>
絲	爺	41 4		平均	
		 -	音		
21.5	22.5	23.5		製絲量	7
1	-		3	28.0	
			3	20.2	
			6	20.0	
7	2	1	32	20.6	1
16	5		47	19.6	
11	1		42	20.2	
	1		14	20.4	
	1		8	20.0	
1	ide i i Est	da f	4	20.0	
			2	20.0	
	1		1	19.5	
36	1	1	162	20.5	
4:1	2:1	4:1	3:1		

				. 對		時	繰	絲	盘				平 均
10 10 201 10	烟 黄:紫	7.5	8.5	9.5	10.5	11.5	12.5	13.5	14.5	15.5	17.5	}	對時間 繰絲量
	12:1		in the	1.1 21			1.	2			AND THE PARTY OF THE PARTY OF THE PARTY OF THE PARTY.	3	13.2
黄	9:1		1 11			1		1	1	n est symmetric myente		8	13.2
色	7:1	1 11			100°	2	3	1		- 1		G	12.3
對	4;1		10. 2	1		8	12	. 7	5.	3	1	32	12.8
紫	3:1	2			3	8	12	11	. 7	4		47	12.8
10	2;1	1 4	the of		8	13	9	10	2	5		42	12.7
割	3:2					2	2	7	3			14-	13.3
合	7:5	[1]					1	5		1		8	12.9
	1:1		10			2	1. 4. 3.5	1	1			4	12.8
	3;4						1			1		2	14.0
	1:4					1	ate e					1	11.5
	計	3		1	6	32	41	45	19	14	1	162	12.9

4:1

3:1

2:1

3:1

2:1

4:1

3:1

割合と解舒並に糸量の相關々表(コ | 黄色對紫色割合と對一時間繰糸量 **織は卷末に附錄として添付しある明** 細表を参照されたいが、今其の色別 右供試二百口に對する各口毎の成 である。

日一號×支四號種に對する相關作用 ルレーション表)を見ると次表の様 號

目五-	十月	八年	五和昭

										-								-			
	T		l		1	1	,	ii.	F-1		tels.	пы				÷		i	·	ı	
	計	平均		•	3	\bar{q} -		9	對		時	問	#3	新	3 1	it .			計	平 對-	丝 時間
21.5		生糸畳	色對紫色割合と生糸量	黄	個 黄:紫		9.5	10	0.5	11	.5	12.	5	18.5	14	.5	15.	5	77	纝	絲量
	1	18.5	色鄉	色	2:1									1		***********			1.	1	3,5
	2	19.5	合	對	19:1									1		1			2	1	4.0
	1.	19.5	生生	紫	14:1									1	***************************************		a angalamana.		1	1	3.5
	1	19.5	治	色	11:1				75					1					1	1	3.5
	5	19.5		割	9:1	- -	1							3		I			5	1	2.9
y	4	19.5		合	7:1]	L			1		2			4	1	8.5
	10	19.2			5:1	-	1			:	3	2		3			1		10	1	2.5
-	9	18.5			3:1	-	1.		1		With the base of the	2		2	:	2	1		9	1	2.9
1.	2	21.0			2:1	- -			1							1			2	, 1	2.5
adaptive? I come make make a separate	1	18.5			1:1				1	144 CH 1/2	a aprile in Kongani	with resident or							1	1	0.5
	1	20.5			1:8	- -	•									1.			1	1	4.5
***************************************	1	17.5			1:16						1								1	1	1.5
1	38	19.3			計·		3 -	***	3	i	 j	4		13		3	2		38	1	2.9
2:1	4:1			平地	均 色:黄色	-	6:1	2	2:1	1	:1	4:1		9:1	. 3	:1	4:	1	4:1		
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			<u> </u>	COME													'		-	
D _x =X杣の平均よりの偏密	$系數\cdots \gamma = \sum_{v \in S} D_v$	ある次の第式によった。	の計算はピ	遺繭種の場合O、一		背繭種の場合○11	白繭種の場合○、○三		螢光色別と對	計算すると次の如き數を得る。	敷をピイアーソン氏の法式に依つて	右の成績を基礎にして相關關係の系	も總數に對する平均である。	3、 X 軸及びY 軸の總平均價は何れ	はして居る。	量は何れも一匁毎の級價を以て表	2、Y 軸の對一時間繰糸量並に生糸	繭一個發現したる意味である。	一とあるは黄色三筒に對して紫色	個數の比を示して居る。即ち三對	の發現個數に對する紫色繭の發現

				生	
逝	久			*0 F	
色	黄:紫	17.0	18.0	19.5	20.
蹚	12:1			,	2
紫	9:1			1	2
紫	7:1		1	1	4
色	4:1	1	1:	5	15
割	3:1	1	2	5	18
合	2:1	1	6	10	1:
	3:2			4	()
	7:5			5	2
	1:1		1	1	1
	3:4	2 .		1	1
	1:4			1	
	色質紫紫色	色 遊·紫 9:1 紫 9:1 紫 7:1 色 4:1 3:1 6:1 3:2 7:5 1:1 3:4	色 黄:紫 17.5 黄:紫 9:1 紫 9:1 紫 7:1 色 4:1 1 剧 3:1 1 3:2 7:5 1:1 3:4	色 遊案 17.5 18.5 對 12:1 紫 9:1 紫 7:1 1 色 4:1 1 1 割 3:1 1 2 合 2:1 1 6 3:2 7:5 1:1 1 3:4	数 数 17.5 18.5 19.5 数 12:1

3

3:1

17.5

1

2

1 4

1:1

1

5

1

1

9

6:1

11

3:1

生

1

34

2:1

糸

18.5 19.5 20.5

2

2:

2

3

5

16

8:1

2

1

2

1

1

1

8

3;1

67

4:1

盘

旓

色

對

紫

計

黄;紫

21:1

19:1

14:1

平 均 責色:紫色

黄色對紫色割合と對一時間繰絲量

1、X 軸の黄色蝎紫色割合は黄色繭 量は何れも一匁每の級價を以て表 個數の比を示して居る。即ち三對 はして居る。 、Y胴の對一時間繰糸量並に生糸 繭一個發現したる意味である。 の發現個數に對する紫色繭の發現 一とあるは黄色三簡に對して紫色

算すると次の如き數を得る。 をピイアーソン氏の法式に依つて の成績を基礎にして相關關係の系 も總數に對する平均である。 、X軸及びY軸の總平均價は何れ いと云ふ事が幾分謂 ひ得るのであ のは稍々解舒よく生糸量も亦稍々多

は實驗の成績にも示す通り極く僅か れる様に汚へられる。然し其の關係 の程胸質がよろしいと幾分謂ひ得ら の場合は黄色繭の發現割合の多いも た結果を繰合して見るに、同一蠶種 總 である。 以上の様に色々な方面から實驗し 擂

三六〇 五三六二〇四 1九、〇〇 三九、101、三一〇、四四二八八 三九三

0. 明显是一图

5°, 21

前面1,00

「九、二二三八、二、四十0、四三二、一一四、〇二

19 11:1 捌 9:1 숨 7:1 5:1 2:1 Dy=y軸の平均よりの偏差 2:1 1:1 1:8 1:16 計

々相違ある箏は前節來記述の通りに の他の環境を異にする事に依つて種 別の割合が蠶品種、飼育條件或は共 繭の紫外線下に於て發する螢光色 第六節 色別と製糸關係

色別繭の製糸試験 表示する。

昭和二年小縣郡地方支四號×日一號 | 一生糸 | 掘力 | 上 ル | 一部で記 仲度

頭に置いてかくる事が大切であり見 逃せない事項である。 蠶品種關係及び養蠶上の諸條件を念 叙述した通り此の關係を充分知つて 質闘係を云々する場合には前節にも 上望ましくない結果に置かれたもの 胸が上族或は其他の環境に於て養蠶 した場合であつて、これは多く其の 態を逸して特に紫色繭の割合を増加 又通有性であるべき螢光色の發現狀 品種の胸が其の鑑品種の固有である である事である。螢光色別割合と繭 然し玆に注意を要する事は或る鑑

は完全なる負の相關作用ある事を示十一は完全なる正の相關現象、一一 思推し得るものであつて、同一な品 て得たる以上の結果を考へて見ると す公理を基として實験の範圍内に於 の数によつて駆はれるものであり、 種に於て黄色繭の發現割合が多いも 極く値かに正の相關關係あることを し、又零は全く相關關係無き事を示 相闘系数が十一より一一までの間

覆して行つた。今共の經過の大要を を評種の繭に就て色々の方向から反 あるかを突き止める爲次の如き試験 際問題として其の關係がどの位影響 原科繭としての價値は多い様に認め の割合が多く現はれたもの程、製糸 色繭の割合多い程、叉養蠶上望まし 関係を同うする同一鑑品種にして同 られるものである。然し製糸上の實 れて其の蠶品種の特性以上に黄色繭 い飼育條件や種々の好環境に支配さ 一地方の同一時期の蠶繭に於ては黄 て勿論なれ共一般論としては、雌雄 備考

新皮とは添緒後第

一回目の落緒繭、海皮とは其の落緒繭の再落緒を

意味する。

(六)

昭和三年同地方日一號×支四號種 変色版 三岩の 中間風 表の 織生 加ニ 当 カーデ

三元

100%

均色別區平

暗褐色區 中間色鳳

7 三、出

100、图画、别园、图公、

三、宝二〇八、三、八三二、二个

三デアル

公園、七三、五三三、七八九、

卵黄色區

仲度

昭和二年長野地方秋日支交雜種

三人二、10 1七、次二 三人、1七 1、次0 0、四 11、1人四、10。1四、1三次字、五

二 。 。

111,111

完工三、表

四八〇四十二章 「女、」四 三五、七八二、三四〇、七七章、三九

光光生。当日七久 也、当、至日、一人、

以下次號

H.

第

黄色區 崇四 完成 171二 過別 察色區 三四 スカスコ・1 章 | 1大、0 章 | 英華、大道 | 「大司 | 1、1天司、中国 0、1大道、八〇 | 1四、五天四人、平宮、孫章 索緒 順肌 揚蹦合計 一四、四四八八二三、七一 纖生 失 額節 ニール 10 表 伸度

白繭合併繭を二色別に分ち二名にて六回反覆す。

糸量並解舒比較

中間區 風別 黄色區 ×支 日_四 0,001 71. 號號 支日 匹號 华人 0,0 秋日支 指 0,000 數 ZĮS. <u>汽</u> 0,001 Ľj ×支四號×支四號 0,001 生 生 0 温 秋后支 指 0.00 臌 ZΙS 1007 행 뺽

備考 敷を第出す 實驗例の對 時間線糸量及び生糸量に就き黄色區を一平均として指

落緒步合

圖 紫中黄 色間色 别 區區區 新支 皮 三三 元% 湖日 皮 五灵元 新旧 皮 Ж 景景景 新日 皮 邓白

を行つて別々に繰糸した場合と、分 ば次に紫外光線にて螢光色別に分離 量糸質上稍々優る傾向を略認めたれ た場合は黄色繭の方が繰糸の能率糸 黄色繭と紫色繭とを別々に緑糸し もので之を對照區としたのである。 色別の有無による良否比較 色別分類を行はない産繭其のまくの 昭和三年春アスコリー×支九八號種 のとの比較を試みた。即ち標準區が

全く迂濶であつた。

離を行はず其のまゝにて繰糸するも 第1日供試職 梁時獨一時 一粒 製問 量 一生糸量 (豊科地方産) 級度 額節 ニール 伸度

暇のない事はあるまいと思ふ。

備考 四回反覆試驗の平均表である。 さんの片影

加

美

好

男

事は最近一度も耳にしない、之れは 前十一時半だと云ふ。病氣であつた で苦しんで居られたと云ふ事が判つ ひないと僕は斷定してしまつた。處 **ずから、不慮の災害に遭はれたに違** 山さんが例の非常識と突撃的な向見 飯前のあの忙しい大阪の街の中で向 平澤君等とも話し合つた。恐らく登 頓死だと決定して終つた。井上先生 が二三日經つて一ケ月も前から重病 急になくなられたと云ふ。何でも午 たら蒲生さんから電話で向山さんが **晝飯を食つてぼんやり机に倚つて居** 非常識の大家向山さんが逝つた。 ある様な感がする。 の御酒萬能說に對し共に今目の前に した観水亭の廣塲で君が盛に御酒は なつて、共會の當日あの千曲川に面 御茶菓子であるかと云ふ事が問題に 我吾新入生の歡迎會を酒であるか、 君を見た事は一円ならずあつたが。 帽のまゝで悠々と裸足で歩いて励る ない。尤も雨のドシャ降りの中を無 ると云ふ評判を耳にした外余り知ら に住んだ、其中には奇態の變人であ 向山さんとは一年間上田で同じ學校 のは、當時朔風會長たりし矢田部氏 いかぬと黒い顔して眞剣に説かれた

も一ヶ月もの長い間重病で入院加療 らうが襲讐の一枚位書けない程に余 たのは並だ残念でならない。忙しか 其様子を少しも知らせて下れなかつ さんの御膝下で働いて居られたのに 叉我等同人の中の三四の諸君は向山 して居られた事を知らなかつたのは 定を逃だ申譯なく思ふ。それにして になつたのだと聞いて、僕の先の斷 た、而して遂に再び立つ能はざる事 組の通りに皿の上に並べて下女が來 躍に口ですどいて、ちゃんと原の骨 ず食つて終つて骨だけを一本々々奇 残さず食つて、更に煮魚は皮迄残ら を食つて飯櫃の中に米粒牛粒さへも 恩師朝比奈先生も當時一所であつた ある。弦で約二年君と一所に居た。 のあの古ほけた應用化學科の教室で たのはそれから五年後で、大阪高工 次に向山さんと遇つて同じ所で働い であつた。時々僕の下宿へ死ては飯 一人で随分と出鱈目な事をしたもの

> の夏休みには一期間何處かへ養蠶教 外に高工附設夜學校の先生、神戸高 師に行かれた様に記憶して居る。 强は大變やつた様だ。赴任最初の年 商の講師それから關西商工學校の先 つて居られた。それで高工の先生の るからどつさり稼がねばならんと云 でも學費の借金がまだ大分残つて居 生等をやつて居た。 へた研究は殆んどやらなかつたが勉 だ學校では専問科の外に獨逸語も教 事位何でもないだらうね君!」と聞 千日前の盛り場、さては心齋橋通り 買つて懐中して歩き乍ら、道頓堀や 食ふ大きな館餅の焼いたのを七八つ ても平氣ですまして居た事も一回や まへて「大阪は食ふ都だからこんな を平気でむしやくしと食べ乍ら歩い もフ、ンと云つてすまして居たもの る徳に御聞き下さい」と返事されて いて巡査から「貴下の着けて居られ た。而して通りがかりの巡査をつか 二回じやない。勞働者がよく買つて

一僕は長年居たが一遍も見ないんだ、 ね」「じや君一つ見ようじやないか 視ないよまだ此間來たばかりだから を見たかい此方へ來て」「俺はまだ 恩師原田、佐藤利一兩先生も伯林に て日本へ歸る可く準備中であつた。 常識突撃的の精進さで研究を大成し 有名な Ostwald 先生の下で例の非 三年に余る年月を Leipzig のかの 暫時住む事になつた。此時には君は り交沙はなくて過ぎた。所が昭和二 大正八年の容、君と別れて僕は會社 い。或日君の日く「君オペラか芝居 滯在された時だから 尚 更 感慨が深 年の初秋はからずも獨逸伯林で君と へ入つたがそれから時々遇ふ位で余

と思ふ」と云つて居られた。

歸つた。翌日君の下宿に訪ねて昨夜 うと云ふ事で切符を求めたが空席が りて日本人俱樂部で夕食をやつて直 番安い(たしか二十五錢位)席へ入ら 幾分世間並化する力を持つて居る事 とで君一人見る事にして僕は共まゝ ない。やつとの事で一つあつた。そ ぐ近くの芝居小屋に行つた。所が一 話しが出來んからね」僕は此時外國 Nollendorf Platz で地下電車を下 に氣がついた。それから二人であの へ來る事が向山さんの様な人をでも

云つた切りで話しは外にそれて終つ 居なんて全くつまらんものだね」と 本の奥様へ對してわしは申譯が立つ 国の保険をつけた相な。「貧困な僕が の客となられた友人の遺骨を持つて 所に Leipzig で苦學勉强中遂に不歸 此保險料を排つての注意だから、若 國へ歸らんとして居た。之れに三千 長年勉强して更に獨逸へ來て君と一 た。當時君は北海道出の方で米國で し途中無くする様な事があつても日 の芝居はどうだつたと聞いたら「芝 た。

居る。先づ君の日く 腰を下ろしてからの話しが振るつて 中なんだからね。そして漸く二人で 車は淀川の鐵橋の上を急速度で進行 客一同ワッとふき出して終つた。電 車へ移し、次に君は窓から匍ひ出し を下ろさせて先ず君の鞄を僕の方の つと差出した。思ひがけぬ行動で乗 て僕の方の車の窓へ半身を水平にぬ 時、君は前車に居て僕は後車に居た が僕を見ると直ぐ君は車掌に窓硝子 それから翌昭和三年の初夏偶然京 電車の中で君と一所になつた、共 の挨拶に

號

Ji.

第

せめて一つ位は見ないと歸つてから |「食ふ丈けは貫つて居るよ」 「君今月給をいくら貰つて居るか」 |「石原君から聞いたが、すばらしく 「君の想像に任せるよ。一休それが 澤山貰つて居ると云ふじやないか。 四百か五百か?」

勿論技師長だが君の取つて居る給料 會社に入る事に話しが進んで居る。 「實は最近僕は東京の 人 絹闢係の或 どうしたと云ふのだし より少いと云ふ法はないから君の實

一近所の人達はクツ (と笑って居 こんな會話を大點でやるものだから 收額を聞くのだし

| 考へた事はやつつければ止まない男 一あんな男を無くしたのは。何處迄も たぬ或日の朝五時以(四月頃)突然と に居た毎婚後まだ二十日ばかりか經 旨で加減を一寸附加へる。僕が膳所 あつたと思ふ。最後に君の御世辭の だ。誠に惜しい事をしたと思ふ…… やつて來た。 で必ずやり遂げる所に君の偉大さが 其次は京都の四條で遭つた切り た。

物を作つて朝食を二人で初めようと 家内は早朝から此挨拶を聞いてまご した所初めて家内と顔を遺はしてそ ついて終つた。それでも何とか食ふ 「やあ御早よう、今汽車で大津へ着 たんだ。御馳走して下され」 いたので君の所へ朝食を食ひに來

「僕は向山です。奥さん御馳走にな りに來ました。奥様は大變別賓で

君の想像に任せる。 此時僕等二人はどんな顔をしたか諸

(七)

唐澤さんをおも ふ

碓 氷 茂

一通りではなかつた。

に起つたので。 ろだが、その事件は東隣りの櫻井村 南佐久の最北端の岸野村といふとこ 私が小學校の頃であつた。僕の村は を動揺させる事件が起つた。それは 山を眺めて暮す南佐久の平和な農村 明けても暮れても、千曲川と淺間

ばいになつたさうだ。」 持ちの娘さんを貰つた人があるさう だ。とても立派な衣裳で、家中が一 「蠶絲専門を卒た人で、素晴しい金 Ę いふ噂が僕の村迄傳つて來

た丈の高い中年の紳士があつた。 佐久鐵道で上田へ向ふ僕を呼び止め 専門一年の正月だつた。中込驛から やつたよ」 「君は上田の學生だね。僕も上田を それから幾年か流れて、僕が蠶絲 了つた。

考へ出した。この人こそ唐澤藤藏さ 金持ちの娘さんと結婚された人だと の時僕は、この人が、小學校の頃の 村の出身であることがわかつた。そ の紳士の話によると、紳士は、櫻井 んだつたのだ。 と、僕の帽章を見て話された。と

た。唐澤さんは、片倉關係の福嶋市 習を計劃してゐた。それで當時仙臺 であるといふので、福嶋へ心配して 外杉葽村の紡績會社が、工場擴張中 にをられた唐澤さんに 手紙を書い その年の三月、僕は個人で紡績質

ついでに郡山へも行って實習をし から福嶋へ引き返して實習をした。 **藁へ行つて唐澤さんに面會し、それ** 試験が終ると、直ぐ僕は、先づ仙

唐澤さんとはぶつつり音信が切れて向轉換をして了つたので、それから いはれたものだ。然るに僕が急に方 さつた。如何なる勢をも惜しまぬと 唐澤さんは、僕が紡績會社へ遺入る た。 つた。ところが、三年生の夏頃から ととについて非常に心配してゐて下 底的にいやになつた。それ以前から 僕は生涯を紡績會社で送ることが徹 唐澤さんへ通信することを怠らなか そのととのあつて以來、時々僕は

澤さんは御病氣で見えなかつた。 訪問した。ところが、その時既に唐 といふことを聞いてゐたので、是非 中、疊町の片倉本社に、唐澤さんを 一度御面會の榮を得よ うとしてゐ た。そして昨年の夏、京都へ行く途 その後唐澤さんが東京にをられる

知に接して了つた。 そしたら最近唐澤さんの悲しい報 (一九三〇。七三二 於上田)

×

×

岡教授歸 朝

またが、経験であった。これが 百五年 養於 落連 無然不是

· 等原本方式 · 多一次 · 多大

英、佛で絹絲紡績及び機械學の御

羅拿阿立法亦為指揮為 等

取つたととがないので、僕が實習を するためには、唐澤さんの御配慮は た。それまで片倉では紡績質習生を 下さつた。郷山へも心配して下さつ 要なる所以を知らしめて下さる事必 常であらちと思ふ。 明瞭にすると共に絹絲紡績學の又重 い現在に同校の絹絲紡績科の存在を ものがある事と思ふ。紡績と云へば 教授今後の御活動は實に素晴らしい もま」あるのである。であるから同 して歸朝後叱られる様な低能率な人 諡と諡絲の外にないと考へる人の多 綿紡績を思ひ。蠶絲學校と云へば養 からだ。無理にも規定以上の延期を 査の完全を期したいのが常則である た場合、一日でも長く居て研究や調 なれば熱心なる學徒の歐米に留學し を要する仕事を一年足らずで成し途 其他御専門の方面でも常人の二ケ年 で絹絲紡績なんか研究される余地は 研究の後であるから遅れて居る外國 教授の出發されたのは昨年の初夏で 研究を果された、上田蠶絲專門學校 げられた結果であらうと思ふ。何と 更にない事が勿論であるのと、元來 では世界に冠たる我國で既に十分御 縮されたのであるが、此れは蠶絲業 ある。卽ち二ヶ年の御留學を一年短 去る七月十二日無事励朝された。同 教授工學士岡德治郎氏は米國を經て 非常な努力家である同先生は機械學 あつたから湖一ケ年で歸られた理で